

「周りのものや存在を大事にする」

富士中学校 3 年 西山 友貴

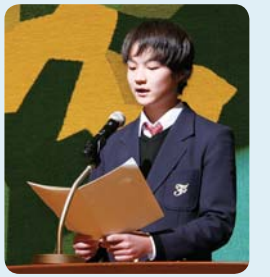
僕は 1 才から 10 才になるまで、おばあちゃんの家で暮らしてました。曾祖父、曾祖母、祖父、祖母、伯父、叔母、父、母、僕、妹の 10 人で仲良く暮らしていました。

おばあちゃんの家は周りが田んぼだらけで山や川もあり、自然がいっぱいのいい所です。春にはお花を摘み、夏は川で水遊びをし、秋は家になっていく柿や栗を収穫し、冬は雪遊びをしたりと、とても楽しい日々でした。

しかし、僕はひいおばあちゃんに対してとても反抗的でした。僕が妹とけんかをしてムツとしていた時にひいおばあちゃんは僕を慰めに来てくれていたのに僕は「おばあちゃんあつちいけ！」と八つ当たりしていました。あの頃の僕はひいおばあちゃんに対してだけでなく「あつちいけ！」が口ぐせでした。でもひいおばあちゃんに對して一番きつくあたっていたと思いません。他にも、ひいおばあちゃん農作業をして手が汚れているのは当たり前なのに「おばあちゃん手きたない。そんなんでご飯食べたらあかんぞ」と、とてもひどいことを言っていました。それでもひいおばあちゃんに優しく接してくれ、僕が悪さをしてお母さんに怒られた後は慰めてくれました。



そんな優しいひいおばあちゃん僕が 5 才の時に亡くなってしまいました。



【西山 友貴さん】

僕はとても悲しみました。僕のお母さんやおばあちゃんもたくさん泣いていました。お母さんやおばあちゃんが見たのは後にも先にもあの時が初めてでした。

そして、ひいおばあちゃんが亡くなってから何年か経ったころ、僕はひいおばあちゃんにきつくあたっていたことをとても悔み始めました。「なんでひいおばあちゃんにきつくあたっていったんだろう。ひいおばあちゃんはそのころでもずっと変わらないうまく接してくれたのに」と。僕はひいおばあちゃんに亡くなって 10 年が過ぎた今でもあの頃の自分を悔やんでいます。

しかし、今年のお盆にある不思議な出来事が起こりました。僕は 8 月 15 日に先祖が眠っているお墓に参って来ました。お墓につくと死にかけてのタマムシがいたので、かわいそうだと思い、そのタマムシを近くにある低い木の茂みにのせてあげました。するとそのタマムシは他の場所に行こうとせず、ずっと僕の方を見ているのです。しかも右の前脚をずっと「ばいばい」と手を振っているように振り続けています。僕は「絶対ひいおばあちゃんや」と思いました。その振っている前脚は「ばいばい」にも見えましたが「がんばれ！」と応援してもらっているようにも見えました。8 月 15 日で、もうすぐ天国に帰らないといけない時間だったので「死にかけのタマムシ」

だったのかもしれない。僕はタマムシのひいおばあちゃんを見て泣きそうになりました。「あんなひどいことばかり言っていたのに、会いに来てくれてありがとう」と。でもここで泣いている所を見せたらせつかく来てくれたひいおばあちゃんに心配かけると思い、笑顔でいきました。この日ひいおばあちゃんに出会えたことで、今までよりも心の奥にあったもやもやが少し晴れたような気がしました。

大切なものはいつ失うか本当に分かりません。今日まで当たり前だったことが次の日突然なくなってしまうことだってあります。大切なものを失ってしまう前に、もっと大事にしなければならぬと僕は気づきました。日頃から周りのものや存在を大事にするから、自分も周りから大事にされるんだとひいおばあちゃんから教えてもらっているような気がします。だから僕は周りにもあるものや存在を大事にしながら生きていきます。それがひいおばあちゃんに對して出来る唯一の恩返しだと思います。そして、次にひいおばあちゃんに会えたらこう言いたいです。

「ひいおばあちゃんごめんね」と。



「お母さんへのエール」

寺口 由起子さん 狭間中学校 PTA

5 つの顔

私は中学 3 年生と 1 年生の二児の母親です。「40 歳までに社会復帰」を目標に、数年前に再就職しました。今年も PTA も加わり、一日 24 時間を社員、PTA 会長、母、妻、いわゆる嫁と 5 つの名前分時間を振り分け、役割と責任を果たす毎日です。普通で考えますと、「うーん」となるところですが、実は楽しい毎日です。趣味はお菓子作りですが、最近は少女マンガ、女性マンガを読むことがマイブームになっています。お茶を飲むことも大好きで、さまざまなフレーザーティを楽しんでいます。そんな一瞬間のほっとひと息の時間を慈しみながら、期日へのエネルギーを充電しています。



周りの人に支えられて

同じ職場にも子育てをしながら働く女性職員は大勢います。私にとつて彼女ら全員が同志であり尊敬の念を抱く存在です。子育ては天気と同じ、晴れの日はかりではありません。熱を出した、学校でけがをした、気象警報が出た、等々。勤務中でも、「母親」に連れ戻されることもしばしばです。順番に事が起こってくれたら上手く回れたのと思う事も何度もありました。そんな、「何を選ぶ」という決断の日々。このことは私に様々なことを教えてくれました。そのひとつは、「何かを取るとは何かを捨てること」「決めることは断つこと」

お母さんへのエール

どんなに仕事をしていても、家事がなくなることはありません。わが家では、家事を分担し、それぞれに役割があります。主に子どもたちはご飯を炊くこと、洗濯、お風呂洗いとごみ捨てをします。受験生でも容赦なし。夫は洗濯とちよつとした買い物、私は残り全てです。ごく稀に夫が料理をすると、すきやきに白菜が入ってなかつたりするので、以来一切頼りません。

最後に、すべてのお母さんへ私からのエールです。辛いときは助けて言ってください。みんな一緒ですから。

わたしのまちの地域部会開催のお知らせ

〜どなたでも参加できます〜

参加無料

広野地域部会

日時：27 年 1 月 18 日（日）13 時〜

場所：広野市民センター

内容：「地域力」

〜いのちを守る〜

※高齢者の人権・障がいのある人の人権・部落問題・フィールドワーク「広野を知る」の 4 分科会を開催します。